

## 事後評価結果（平成22年度）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道329号 <small>いしかわ</small> 石川バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	沖縄総合事務局
起終点	自： <small>きんちやうあざやか</small> 沖縄県金武町字屋嘉 至： <small>おきなわしくしばる</small> 沖縄県沖縄市後原	延長	8.2km		

**事業概要**  
 一般国道329号は名護市を起点とし本島東側を南下し那覇市に至る延長約76kmの主要幹線道路である。  
いしかわ 石川バイパスが縦貫する沖縄本島のほぼ中心に位置するうるま市石川地区は、近年急激に宅地開発が進み、交通量は増加の一途をたどり、特に中心市街地を通る現国道区間では、交差点間隔が100m程度と短いこともあり、朝夕の通勤・通学及び、夏季観光シーズン、休日・祝祭日等には慢性的な交通渋滞が発生していた。そのような背景のもと、石川バイパスは交通渋滞の緩和を図るため、昭和63年度に事業化され、平成17年度に全線4車線供用された路線である。

**事業の目的・必要性**  
 石川バイパスは、うるま市石川地区及び周辺地域における、慢性的な交通渋滞の緩和、沿道環境の改善、交通安全の確保、地域産業の活性化などを目的として計画されたバイパス事業である。



事業 効果 等	事業期間	事業化年度	S 6 3 年度	用地着手	H 1 年度	供用年(当初)	H-年度 / H-年度	変動	- 倍	
		都市計画決定	-	工事着手	H 2 年度	(暫定/完成)	(実績) H14年度 / H17年度			
	事業費	計画時(暫定/完成)	(名目値) - / 475 億円 (実質値) - / 475 億円	実績(暫定/完成)	(名目値) - / 475 億円 (実質値) - / 475 億円				変動	1.00 倍
	交通量(当該路線)	計画時(暫定/完成)	- / - 台/日	実績(暫定/完成)	12,400/16,400台/日				変動	- %
	旅行速度向上(供用前現道→当該路線)	20.8	→	25.4 km/h	(供用直前年次) H6年度 (供用後年次) H17年度		交通事故減少(整備中→供用後)	87 → 80 件	(事業中年次) H9~H12年 (整備後年次) H17~H20年	
費用対効果分析結果(再評価)	B/C	3.5		総費用	641億円 (事業費: 306億円 維持管理費: 47億円)	総便益	2,268億円 (走行時間短縮便益: 2,249億円 走行経費減少便益: -15億円 交通事故減少便益: 34億円)	基準年	H15年	
費用対効果分析結果(事後)	B/C	1.9		総費用	749億円 (事業費: 704億円 維持管理費: 45億円)	総便益	1,443億円 (走行時間短縮便益: 1,346億円 走行経費減少便益: 90億円 交通事故減少便益: 7.2億円)	基準年	H22年	
事業遅延によるコスト増	費用増加額		-		億円	便益減少額	-			

	<p>事業遅延の理由 特になし</p>
	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目  <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑なモビリティの確保（交通混雑の緩和に寄与：渋滞損失時間約6割削減）</li> <li>・個性ある地域の形成（観光地へのアクセス向上：赤崎交差点から主要観光地「ビオスの丘」までの所要時間14分短縮）</li> </ul> <p style="text-align: right;">他15項目に該当</p> </p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目  <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通混雑の緩和（国道329号赤崎1丁目交差点の渋滞長緩和：3000m→40m）</li> <li>・地域活性化を支援（バイパス周辺地域の人口増加：207百人→221百人）</li> </ul> </p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 環境影響評価、対象外事業である。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>【社会情勢の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川バイパス周辺地域において、人口・自動車保有台数・従業者数は増加傾向</li> <li>・交通量が増加傾向になり、ますます自動車依存型の社会環境が進展</li> </ul> <p>【周辺道路網の整備状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恩納南バイパス（H20暫定2車線供用）</li> </ul> <p>【市町村合併】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川市、具志川市、勝連町、与那城町が合併し、うるま市が誕生（H17.4）</li> </ul>	
<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>石川バイパスの整備により、沖縄本島東海岸側の南北ネットワークが強化され、うるま市石川市街地の渋滞が緩和するなど、整備に伴う効果が十分発現されており、効果は持続していくと思われることから、地域にとって重要な役割を果たしている。</p> <p>このことから、事業目的を達成していると判断できるため、今後の事業評価及び改善措置の必要性はない。</p>	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特に、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>	
<p>特記事項 特になし</p>	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。